

Title	ホッジス氏の炭坑国有論
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.2 (1921. 2) ,p.300(144)- 302(146)
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210201-0144">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210201-0144</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

先生は北京大學卒業後同校教授たり是等の學者は凡て近時の人々にして諸兄も已に知悉せらるゝこと、信するが故に餘りに贅せず。唯北京大學の人々が筆を揃へて井田制度を否定するに反して南方政府の學者が俱に其を肯定する不思議の現象を記するに止む。(李永霖)

### 新刊紹介

#### ホッヂス氏の炭坑國有論

F. Hodges. Nationalization of the Mines.  
pp. XII 170. London: Leonard Parsons.  
4s. 6d.

近來英國の勞働運動で最も活躍して居る人は大英坑夫聯合會書記フランク、ホッヂス氏であつて、勞働者間に於ける輿望に於ては、或は會長スマイリー氏を凌ぐの趣なしとしない。是れは英國の勞働運動なり、其運動の中堅たる勞働組合なりが段々發展して來るに隨ひ、合理的動作をしなければならぬ場合に臨んで、ホッヂス氏の如き學殖あり、知識ある指導者を要するの關係に基くものと見る可きであつて、勞働組

合聯合會が年來組合の指導者を養成することに意を注ぎ、ホッヂス氏の如き有爲の人物を其少壯時代にラスキン、コーレンヂに送つて、修學させた効果は今日に於て空しからずとす可きである。

昨年英國で炭坑夫同盟罷業の起つた際、ホッヂス氏が「坑夫の移す可からざる論據」と題して、「レーボア、リーダー」誌に寄せた一文は内は炭坑夫の聯合を鞏固にし、外は炭坑罷業に對する世間の同情を繋ぐ名文として、噴々たる好評を博するに至つたが、之と相前後して公にされた炭坑國有論は炭坑經濟の見地から、國有の止むを得ざること、デモクラシーを完成する爲めには、國有制度の下に、從業者に管理權を與へなければならぬことを論究したものである。英吉利は或る點から云へば、民有主義を基礎とする經濟制度の祖國であつて、國有論も餘程以前か

ら鐵道に、近年は炭坑に主張され來つたが、之に對する反對論は自ら強烈ならざるを得なかつた。反對論の骨子は何處に在るか云へば、第一國家は生産に干與する權利を持たぬとか、第二國家が財産を所有し、國家の企業として、之を經營したならば、生産費の増加を免かれぬとか、第三國家經營の事業に於ては、事業擴張の能力が破壊され、行政を畫一に流れさせるとかの諸點に外ならぬ。ホッヂス氏は最も痛切に斯る議論を駁撃し、官僚に支配される國有事業と管理權の附帶する國有事業と其經營上の效果に於て、如何に異なるかを説明して居る。氏の言を引いて、産業管理權の根據を説明すれば、氏は實に「吾人は責任ある人間として、産業に於ける地位に比例する權能を有し、自己が一の單位として産業上の行動に親しく責任あることを感ずる人たらんことを希望する。今日吾人は賃銀

奴隸たる地位に置かれて居るが、之を脱して、自由人たる身分を占めることを望んで已まな

いと云つて居るのである。  
思ふに國有論は英國に於て、獨り炭坑のみに主張されるのではない、鐵道に其他の資本的企業に同様の主張を生ずるのは、明白の數であるが、就中炭坑に關して、國有論の起り來つたのは何故であるか。英國戰後の經營から云ふと一年少くとも三億噸の出炭量を要する譯であるのは戰爭の始まる少し前から戰爭中に掛けて、出炭量は二億二三千萬噸を上下するのであつて

然も其價格は非常に騰貴したのである、其處で當然の問題として起つて來るのは、何であるかと云へば、如何にして此の出炭量を増加し得るか、之れを増加させる條件として價格の騰貴を來さず、又賃銀其他の勞働條件を従前以上に維持して行くには如何にしたならば、宜しきかの

一事である。資本家の側に於ては出炭量の減少を以つて、勞働者の努力の不足に歸して已まな

福田博士著 現代の商業及商人

四六版三〇三頁大體閣發行  
定價金壹圓九拾錢

本著は初め「商店雜誌」に連載せられ、「次いで「經濟學考證」中に収録せられたるものに卷末「戰後の世界と商人の任務」の一章を追加し、單行本として新裝上梓せられたるものなり。著者

の期する所は「商人道起つて武士道に代れるが如く、今や新たなる世界に於ては、更らに此の商人道に代る可き新たなる理想が暇々として進み來れることを明かにし、實業に従事し、若しくは之れに志す青年をして、現代に於ける商業の本質を正しく理解せしめ、而して之れに處する現代の商人たる可き者の任務が如何に重大なるかを會得せしめんとするに在るなり。

絢爛を極めたる博士の文は漸く將さに平淡の域に入らんとす。博士の饒舌は滔々説き去り、説き來つて、些の滯滞を見ず、筆を武士道に起して、商人道に進み、戰爭と商業、士魂と商魂、商略と軍略、財權と商權、及び舊式の商人と新式の商人との對偶を掲げ、現代に於ける商人の意義並びに任務を論じ、商業教育の根本義を闡明し、資本の意義と資本主義的社會の真相を啓示し、市場の擴張と商店の變化を述べ、景氣不

景氣の去來を説き、最後に結論として、戰時及び戰後の經濟社會に於て、現代商業の性質に著大なる變化起り、従つて向後の商人が新たなる任務を有することを叙して其の論を終り。而して其の間に於て經濟社會流轉變化の繪畫は讀者の眼前に殆んど目まぐるしきまでに展開し又た轉廻せらるゝなり。

凡そ吾人に知られたる現象の永續不變は總べて皆な相對的のものたるに過ぎず。吾人の眼には商業も商人も、現る可きの時に現れ、滅す可きの時に滅す可きものとして映ずるのみ。然れども、彼れ等が惟り一定の歴史的階段に於てのみ存續するものなりと云へる明白なる事實に由つて、彼れ等は其の現存しつゝある社會に於いて、其の重要な程度を減するものに非ず。吾人は彼れ等が資本主義的制度的下に、又た資本の援助の下に行ひ來りたる事業と成績と、而して